

STAGE+を楽しむ(92)(HP 収載)
—カラヤンのチャイコフスキー6番—

1. 始めに

前報(91)に引き続き、STAGE+のカラヤン&ベルリン・フィルによるチャイコフスキー6番の演奏の試聴を実施します。

2. 試聴音源

今回は、カラヤン&ベルリン・フィルによるチャイコフスキー6番の演奏を選びました。

黄金期の帝王カラヤン&ベルリン・フィルによるチャイコフスキー
交響曲第6番 (1973年)

収録日: 1973年12月1日

2024年1月1日までの期間限定

本映像では、指揮者のヘルベルト・フォン・カラヤンとベルリン・フィルハーモニー管弦楽団の共演で、チャイコフスキーの最後にして最高の交響曲である第6番「悲愴」の演奏をご覧いただくことができます。絶望に包まれたこの楽曲の内容、至高の構造を、黄金期を迎えていたカラヤンとベルリン・フィルの重厚なサウンドが鮮烈に描き出していきます。複数回録音された楽曲ですが、1973年のものはとりわけ優れた演奏として多くの人々に愛され続けており、クラシック・ファンのみならず音楽を愛する方にはぜひご覧頂きたいものとなっています。

演奏:

ベルリン・フィルハーモニー管弦楽団

指揮:

ヘルベルト・フォン・カラヤン

曲目:

ピョートル・イリイチ・チャイコフスキー 交響曲第6番 op. 74 《悲愴》



3. 試聴の経過

今回も LAN アキュライザーをスイッチングハブから PC への LAN ケーブルに装着して聴いていきます。

聴きなれたチャイコフスキーの交響曲第 6 番のカラヤン指揮ベルリン・フィルの演奏ということで興味を持って聴き始めました。

チャイコフスキーらしい抒情的な旋律と疾走する爆発的な表現まで、カラヤンの指先の指示から魔法のようにして、オーケストラから音楽が流れ出ます。爆発するくんだりでは、まるで統率のとれた軍隊のような印象すら与えています。

古い収録で、音質はかならずしもよくありませんが、映像での確認も相まって、これぞチャイコフスキーの交響曲という見本みたいな演奏です。



4. まとめ

LAN アキュライザーの効果により、収録音質はかならずしもよくありませんが、カラヤンのチャイコフスキーはこうだということを示しているようです。

以上